



特集

超高齢社会を迎えて

わたしたちができること

2040年には、1人で1人の高齢者を支える時代がやってくると言われていきます。またこれからの社会では、高齢者の5人に1人が認知症になるとの予想もあります。このような問題に直面した時、
当事者である「わたし」、身近な「家族」、生活する「地域」でそれぞれができることを考えてみませんか。

○超高齢社会とは：全人口のうち高齢者(65歳以上)が7%を超えた社会を「高齢化社会」(世界保健機構や国連の定義)、14%超で「高齢社会」と呼びます。さらに21%を超えた社会を「超高齢社会」と呼びます。日本の全人口に占める高齢者の割合は27・7%(平成29年9月現在)、本市は33・8%(平成30年4月1日現在)であり、「超高齢社会」です。